

2022年5月26日
下地島空港活性化協議会

「下地島空港活性化協議会」を開催しました
～羽田発着枠政策コンテスト評価対象期間がスタート、地域×航空会社の一層の取組を推進します～

下地島空港活性化協議会(会長:座喜味一幸)^(※1)は、5月25日(水)に第8回「下地島空港活性化協議会」を開催しましたので、お知らせします。

(※1) 本協議会は、宮古諸島の受入環境整備や下地島空港の航空路線プロモーションなど、下地島空港活性化に資する各種事業の立案並びに実施することを目的として、2020年8月に宮古島市、沖縄県、(一社)宮古島観光協会、宮古島商工会議所、下地島エアポートマネジメント株式会社にて立ち上げた組織です。

【第8回 下地島空港活性化協議会】における主な報告・協議事項】

① 下地島空港の現況

- ・ 2022年夏期スケジュールにおいても、スカイマーク3路線(羽田・神戸・那覇)並びにジェットスター・ジャパン1路線(成田)の計4路線が運航
- ・ コロナ禍にあるものの、2021年度において、過去最高の利用者数となる21.7万人を記録(2019年度:12.5万人が過去最高)

② 羽田発着枠政策コンテスト関連

- ・ コンテスト提案内容の取り組み事項に関する今年度の進捗確認や評価・検証の実施
- ・ 評価対象期間(3月27日から1年間)である今年度の誘客及び受入環境整備に向けた各種施策の協議

第8回協議会の冒頭、会長を務める宮古島市の座喜味市長より以下の通り挨拶がありました。

「いよいよ羽田発着枠政策コンテストの評価対象期間になった。羽田発着枠の獲得は宮古島市だけではなく、沖縄県全体の観光振興に大きな影響を及ぼすものだと考えている。発着枠確保のため、一丸となって羽田線の利用促進活動を進めたい。」

その後、下地島エアポートマネジメント株式会社より以下の通り下地島空港利用状況について報告がありました。

- ・ 2022年夏期スケジュールにおいても、スカイマーク3路線(羽田・神戸・那覇)並びにジェットスター・ジャパン1路線(成田)の計4路線が運航。
- ・ コロナ禍にあるものの、2021年度において、過去最高の利用者数となる21.7万人を記録。
(過年度利用者数実績 2019年度:約12.5万人、2020年:約11.3万人)

また、協議会メンバーにて航空路線の維持・拡大に向けた施策について意見交換が行われたほか、閑散期の需要振興対策として宮古島市が公募を行ったスポーツ合宿誘致検証委託事業や誘客活動として首都圏をはじめとする大都市圏でのデスティネーションキャンペーンの計画等、羽田空港発着枠政策コンテストにおいて提案を行った取組みに係る進捗状況の共有ならびに、評価対象期間(2022年3月27日から約1年間)である今年度の誘

客及び受入環境整備に向けた各種施策等、今後に向けた協議が行われました。

本協議会は、今後も官民一体となって下地島空港活性化に向けた施策を立案・推進し、宮古諸島のさらなる活性化を目指します。

第8回下地島空港活性化協議会の様子



■ 第8回「下地島空港活性化協議会」概要

日時： 2022年5月25日(水)13:30~15:00

場所： 宮古島市役所会議室

出席者： ●「下地島空港活性化協議会」会員

座喜味 一幸 宮古島市長(協議会会長)

真島 洋企 沖縄県文化観光スポーツ部 観光政策統括監(協議会事務局)

新城 武一郎 宮古島商工会議所 専務理事

平山 茂治 (一社)宮古島観光協会 専務理事

伴野 賢太郎 下地島エアポートマネジメント株式会社 代表取締役社長